

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	地域材利用普及啓発事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
						1	6	2	2	26	2	204
部等名	産業経済部	課等名	林務課		包含する細々目							
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり											
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画 条例等	森林・林業基本法、伊那谷地域森林計画、長野県林業・木材産業構造改革プログラム、飯田市森林整備計画 地域経済活性化プログラム					
		事業期間	18	年度～	年度							

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	工務店等木材林業関係者 地域市民	林業木材産業関係者数(人)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする	
			600			
		飯田市の人口(人) (H18.10.1推計人口)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
			107844	107000		
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
販路を見出す 地域産材を利用してもらう 当面は販路を開拓するための懇談会を中心に情報交換を行う。	木材産業関係者との各種検討会参加者数(人)	18目標	600	最終目標		
		18実績		19目標	600	
	23目標	600	23実績		最終目標達成年度	
	木材と緑に関する各種参加者数(人)	18目標	1000	最終目標		
		18実績		19目標	1000	
		23目標	1000	23実績		最終目標達成年度

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	・地域材(間伐材)の利用を促進させるため、民間主導による商品開発などの取り組みに支援を行うなど、需要拡大の意識啓発活動を行う。 ・木材産業関係者との連携による地域材流通販売と生産体制について、マーケティングを実施する。	18年度の実績 素材生産業者・製材業者・設計士・工務店等との連携やネットワークの強化を図るための各種懇談会開催 森林・木材への関心を高め、木のよさ、暖かさの実感してもらうための森づくり作業体験、木工体験、林産物販売、パネル展示、地域材に関する相談等	木材産業関係者との各種検討会参加者数(人)	400
	19年度計画 素材生産業者・製材業者・設計士・工務店等と連携しながら、木づかいネットワークを構築していくための各種懇談会開催 木材産業経営者のため、飯田市産材としての素材生産流通システムの構築導入のための支援(喬木木材市場の有効活用策) 間伐で搬出された木材の流通販売モデルと販売戦略の検討(飯田市産木材利用指針の基づく実証事業) 森林・木材への関心を高め、木のよさ、暖かさの実感してもらうための森づくり作業体験、木工体験、林産物販売、パネル展示、地域材に関する相談や講演会	木材産業関係者との各種検討会参加者数(人)	600	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	200	204
	事業費計(A)	200	204
人件費	正規職員所要時間	18年度 112	19年度 200
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	401	715
	トータルコストA+B	601	919

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	出荷額を高める活動をする	林業生産額(億円)	現状値	7	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	7.5
	地域経済自立度 (%)		現状値		19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標	60	

この事業を開始したきっかけ 地域材の利用普及推進することは温暖化防止や地産地消、循環型社会の構築につながるから 地元林産業の衰退による地域材供給低下と森林の荒廃を打開するため 地域内産業としての林業活性化	事業を取り巻く状況の変化 林業関係者等で関心が高まっている。講習会等ですらに関心が高まり行政に期待するところが大きくなった。	事業に対する市民や議会の意見 市民から木のよさ、木の健康で快適な暮らしを期待する声があり、こうしたふれあい、体験し、実感できる機会を求める声がある。 近年環境に配慮した住宅などの関心が高まっている。
---	---	---

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？ (評価) 結びつく (その理由) 豊富な森林資源を有効に活用するためにはまず木材を使い、良さを知らなければならぬと考えたから	成果をさらに向上させる余地はありますか？ (評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？ (評価) 必要性がない (その理由) 木材産業が活性化すれば地域材の活用が促進される。地域材のよさが認識されれば木材利用が促進される。	廃止・休止した場合の影響はありますか？ (評価) 影響あり (その理由) 木材産業の衰退は森林荒廃につながるから
	意図の見直しの必要性はありますか？ (評価) 必要性がない (その理由) 林業関係者の労働力確保と生産性向上が必要だが、需要が見合っていないため、現状を打破するためには各種講習会や展示会など目で見、手に触れる機会が必要	他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む) (評価) 統合不可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか) (評価) 必要ある (その理由) 林業木材産業は飯田市の重要な産業であり、豊富な森林資源や木材利用の必要性から行政と連携、スクラムを組んで取り組む必要がある。	成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？ (評価) 不可能 (その理由) 必要最低限の事業費
	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？ (評価) 妥当である (受益者とその理由) 地域材利用普及は市民全体に恩恵がある。	

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案 今までは市民(ユーザー)対象の普及啓発だったが、木材産業が地域内産業として活性化するためや、間伐材の用途拡大のため林業木材産業関係者とも連携を図るようにした。 林業将来ビジョンができたことにより、その方向に合わせてネットワークを構築していく必要がある。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	生産から流通加工、販売促進まで総合的にコーディネートを行う人材の育成と誘導が必要不可欠

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	